

# 持続可能な原材料調達 連続セミナー

## 第6回 企業の取り組み事例

日時: 2006年12月12日(火) 13:00~16:15

場所: 新宿御苑インフォメーションセンター レクチャールーム

主催: 地球・人間環境フォーラム

協力: FoE Japan、WWF ジャパン、グリーンコンシューマー研究会、グリーン・フォワード、サステナビリティ・コミュニケーション・ネットワーク(NSC)、日本環境ジャーナリストの会、日本消費生活アドバイザー・コンサルタント協会(NACS)、バイオマス産業社会ネットワーク(BIN)、標準により消費者の利益を増進するコア・グループ(NCOS)(ABC/50音順)

日本は世界有数の資源消費国であり、多くの資源がさまざまな形で発展途上国から輸入されています。本来、原材料の調達にあたっては、日本国内だけでなく生産地における環境・社会配慮が欠かせないはずですが、複雑なサプライチェーンや情報の不足から、これらの問題は必ずしも消費国で認識されていないのが実情です。

本連続セミナーでは、私たちの身近な食や住まいなどに使用されている一次産品をはじめ、鉱物資源、また責任ある融資を取り上げてきましたが、最終回では、原材料のCSR調達に取り組んでいる企業の事例を紹介します。

### プログラム

#### 【イントロダクション】

13:05 ~ 13:25 資源の持続可能性と原材料調達 ~ 第5回までを振り返って  
満田 夏花 / 地球・人間環境フォーラム

#### 【CSR調達に向けた企業の取り組み】

13:25 ~ 13:55 商品憲法の経験から  
竹本 徳子 / 株式会社カタログハウス取締役エコひいき事業部長

13:55 ~ 14:25 CSRを通じた企業と社会の対話  
~ CSRとイオン・サプライヤーCoCを中心として ~  
上山 静一 / イオン株式会社環境・社会貢献部部長

14:25 ~ 14:55 紙製品・木製品の責任ある調達 ~ グリーン購入法改定を受けて  
亀井 一行 / アスクル株式会社社長室環境マネジメント統括マネージャー

14:55 ~ 15:10 ~ 休憩 ~

#### 【会場とのディスカッション】

15:10 ~ 16:10 CSR調達の新たな展望  
モデレーター: 足立 直樹 / 地球・人間環境フォーラム客員研究員、  
(株)レスポンスアビリティ代表取締役

司会・進行: 根津亜矢子 / 地球・人間環境フォーラム

前回までの講演内容は下記 URL をご覧ください。

[http://www.gef.or.jp/seisakuteigen/genzairyou\\_seminar2006.htm](http://www.gef.or.jp/seisakuteigen/genzairyou_seminar2006.htm)

## 第6回 企業の取り組み事例

～ 講演者略歴 ～

竹本 徳子(たけもと・のりこ) / 株式会社カタログハウス 取締役 エコひいき事業部長

1976年(株)東京子ども教育センター(カタログハウス前身)入社。企画制作室で幼児教材の編集、DM企画制作、媒体担当を経て、広告本部副本部長。1996年取締役就任。(社)日本通信販売協会(JADMA)へ員外理事として出向。2000年より環境マネージメントを担当し、ISO14001認証取得。販売商品の修理、中古販売、リサイクルなど、小売業における環境関連業務に従事。また自然エネルギー推進、環境配慮型製品の開発など持続可能な消費を目指す大学やNPOとの協働、企業市民としてのCSR実践に関する。

上山 静一(うえやま・せいいち) / イオン株式会社 環境・社会貢献部 部長

1969年立命館大学文学部地理学科卒業後、ジャスコ株式会社入社。1987年3月能力開発部長、1994年3月東海第二事業部長、1996年3月情報システム部長を歴任。1997年11月ジェーゾーン(株)(パソコン専門店チェーン)代表取締役社長に就任。2001年3月より現職。

亀井 一行(かめい・かずゆき) / アスクル株式会社社長室環境マネジメント(兼)品質管理統括マネージャー

1980年プラス株式会社入社。事務機器営業部門に配属後、店頭営業本部、文具事業本部、営業統括本部等で、ステーションナリー分野のマーケティング・販売促進業務を主に担当。新規事業の開発担当としてアスクル株式会社の前身になるアスクル事業準備室に所属し、アスクル事業の立ち上げに参画。1999年アスクル株式会社に入社。マーケティング&マーチャンダイズ副統括、商品MD統括等を担当。2004年8月より、ソーシャルレスポンス環境マネジメントを担当し、現職に至る。

足立 直樹(あだち・なおき) / 地球・人間環境フォーラム客員研究員、株式会社レスポンスアビリティ代表取締役

東京大学理学部、同大学院で生態学を学ぶ。理学博士。1995年から2002年までは国立環境研究所で熱帯林の研究に従事。1999年から3年間のマレーシア森林研究所勤務の後、コンサルタントとして独立。多くの先進企業の環境経営やCSRのコンサルティングを行っている。特に力を入れているのは、アジアのCSRおよび企業と生物多様性。持続可能な社会創りが最大のテーマで、そのための情報をほぼ毎日、ブログ「サステナ・ラボ」(<http://suslab.seesaa.net/>)から発信中。

満田 夏花(みつた・かんな) / 地球・人間環境フォーラム

地球・人間環境フォーラム主任研究員。JETRO 環境ガイドライン策定委員会委員、明治学院大学非常勤講師など。2001～2004年国際協力銀行(JBIC)環境審査室に勤務。現在は、「開発途上国における企業の社会的責任(CSR in Asia)」、「国際金融機関の環境社会配慮」、「原材料調達グリーン化支援調査」などに従事し、調査研究を通じた政策提言を目指す。

～ シンポジウムのご案内 ～

### アジアに迫る温暖化と低炭素エネルギー開発

- バイオ燃料、水力発電CDM、天然ガス開発の持続可能性を問う -

天然ガスやバイオ燃料、水力発電などの「低炭素エネルギー」の利用開発が進んでいますが、これらのエネルギー資源の開発・生産段階では生態系破壊や人権問題など大きな環境社会影響が生じることがあります。現地での環境社会問題を回避・低減する「責任あるエネルギー資源の調達」のために、バイオ燃料や天然ガスなどに焦点を当てた現地の情報や、配慮すべきポイントを基調講演やディスカッションを通してお伝えします。

日時： 2007年2月8日(木) 10:00～18:00

会場： JICA地球ひろば3F講堂(住所：渋谷区広尾4-2-24)

参加費： 1,000円 (主催団体会員は500円)

申込方法： 詳細は近日右記ウェブサイト([www.foejapan.org](http://www.foejapan.org))に掲載予定。申込はウェブサイトより、またはFoE JAPANまで、ファックス(FAX: 03-6907-7219)で名前、所属、住所、TEL/FAX、Eメールアドレスをご送付ください。

主催： 国際環境 NGO FoE Japan、地球・人間環境フォーラム、NPO 法人バイオマス産業社会ネットワーク

助成： 環境保全機構地球環境基金、国土緑化推進機構